



移植栽培の苗づくりに! ヤンマー「セル成型苗」育苗資材

トレイ・養土・肥料の
3点セットでお使いください!



育苗資材の詳細な
情報はコチラから。

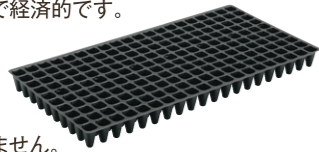
ヤンマーの「セル成型苗」5つのメリット

- 1 土に直接植えるので、活着がよい
- 2 苗ぞろいがよいので、良質の野菜が育つ
- 3 トレイから引き抜きやすく、断根や根傷みがない
- 4 軽いので持ち運びがラクラク
- 5 クルッとまとめて、手植えもラクラク



野菜トレイ

- 繰り返し使えるので経済的です。
- 軽くて持ち運びが
とてもラクです。
- 積み重ねができ、
保管に場所をとりません。
- トレイの形がすり鉢状なので、
苗の引き抜きがラクです。
- 少ない面積で、良質の苗を大量に育苗できます。



覆土用バーミキュライト

- 養土や土で覆土すると発芽率が
低下してしまいます。
覆土には、保水性・通気性に優れ、
覆土面が固まらず、発芽揃いを
促進する覆土用バーミキュライト
をご使用ください。



野菜養土

養土は苗の生育を左右する重要な要素。よい苗床とは…?

- 水ハケがよく、しかも水持ちがよい。
- 酸素が適当で、肥料養分がバランスよく含まれている。
- 病原菌、害虫、雑草の種子を含んでいない。



- ヤンマーの野菜養土は、上記の条件にピッタリの養土です。
- ビートモスとパーミキュライトを主原料とし、
有害菌がなく保水性・通気性に優れたpH調整済みの養土です。
- 作物や、栽培環境に合わせた養土をご用意しております。

野菜肥料ナブラパワー

- 野菜養土の元肥が切れる生育10日目ごろから
液肥にして使用します。
- 液肥かん水は、養分と水分の補給を兼ね、さらに、
セル成型苗の生育をコントロールするためにも重要な
作業です。



ごちそう! 家庭菜園 BOOK

Let's grow delicious vegetables
in the kitchen garden!



ヤンマーホームページ
<https://www.yanmar.com/jp/>



ヤンマーアグリ最新情報をご紹介
ヤンマーアグリ
公式facebookページ



ヤンマーアグリ製品やサービスをご紹介
「ヤンマー農業チャンネル」
YouTube チャンネルはコチラ



ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428
yanmar.com

⚠️ 安全に関するご注意

- ご使用の際は、取扱説明書をよく
お読みのうえ、正しくお使いください。
- 無理な運転は商品の寿命を縮め、
故障・事故の原因となることがあります。
- 故障・事故を未然に防止するため、
定期点検は必ずおこなってください。
- 保証書は、ご購入の取扱い店で
必ずお受け取りください。

商品についてのご意見、ご質問は下記へ

このカタログの仕様は、改良などにより、予告なく変更することがあります。



*Let's grow delicious vegetables
in the kitchen garden!*

ごちそう! 家庭菜園 BOOK

CONTENTS

- 03 栽培の基本
- 05 栽培カレンダー
- 06 おいしい野菜の育て方

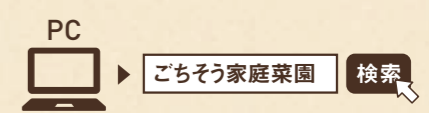
06 ジャガイモ	14 キュウリ
07 エダマメ	15 ナス
08 ネギ	16 サツマイモ
09 ピーマン	17 ダイコン
10 カボチャ	18 キャベツ
11 スイートコーン	19 ハクサイ
12 オクラ	20 タマネギ
13 トマト	21 イチゴ

- 22 ミニ耕うん機 簡単な使い方
- 23 ミニ耕うん機の選び方
- 25 用語解説

ご家庭での“おいしい”野菜づくりを応援する

ごちそう! 家庭菜園 [Webサイト](#)

ヤンマーのWebサイト「ごちそう!家庭菜園」では、
農園やベランダで野菜をつくるための基礎知識や、
野菜の育て方など、楽しくわかりやすくお伝えしています。

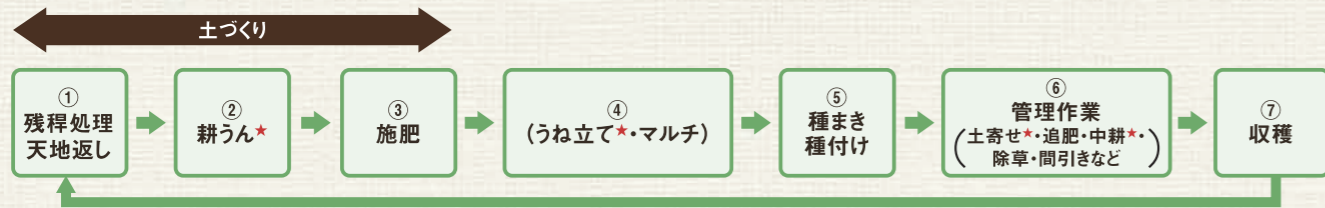


https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/kitchen_garden/

栽培の基本

上手に野菜を育てるためには、土づくりのことや種まき時期、病気・害虫防除など、知っておきたいルールやポイントがあります。そのコツをしっかりとおさえて、おいしい野菜を育て、収穫の喜びを味わいましょう。

野菜栽培の流れ



野菜づくりに適した土づくり

植物がよく育つためには、根が水と空気をしっかりと吸収できる「土」が必要です。まずは畑を診断し、野菜に適した土づくりをしましょう。

前の野菜の痕跡を残さず、土を若返らせることから始める

連作障害を避けるために、前年につくった野菜の根や茎葉などを残さないようにします。栄養になるだろうと土に混ぜ込むようなことは禁物。その後、専用の薬剤を使って土壤消毒をしたり、夏なら太陽熱を利用した消毒、冬なら「天地返し」をします。



元肥を混ぜてよく耕し野菜好みの土をつくる

堆肥などの有機肥料を施して、土をじっくり肥沃にします。このように、野菜をつくる前にあらかじめ施しておく肥料を「元肥」といいます。土に堆肥が混ざると徐々に分解が進み、ふかふかの土になってきます。



空気を含み、水の通りがよく、さらに水と肥料分をたっぷり含む土ができます。これが野菜づくりに好ましい土、「団粒構造」の土です。土は雨が降るたびに隙間がなくなり、固まってきます。すると「団粒構造」から「単粒構造」になって水や空気の通りが悪くなり、根が伸びにくいばかりか、病気を引き起こす原因にもなります。



細かい土の粒が集まっている団粒構造の土が、野菜づくりに好ましい。

そこで、土を掘り起こして固まりを砕く「耕うん」を行います。ミニ耕うん機やクワ、スコップを使い、30cmくらい掘り起こすことで、作物の根が十分に生長できるようになります。



ミニ耕うん機なら、手軽に、短時間で耕すことができます。

野菜が嫌う酸性土を中和させるため、石灰分を補充する

畑の土壌酸度を測定して、酸性に傾いている場合は石灰資材をまき、酸性土を中和させます。雨の多い日本の土は酸性に傾きがち。酸性土は根が傷んだり、リン酸分を吸収しにくくなり、野菜の成長が衰えます。

野菜の種類によっても異なりますが、pH(ペーハー)が6.0以下のときは石灰の投入が必要です。また石灰をまきすぎてアルカリ性になると、今度はマグネシウムや鉄分が吸収されにくくなるので気を付けましょう。

なお、石灰をまいたすぐ後に植えると、野菜の根を傷めてしまうので、植付け作業の最低2週間前に混ぜます。

畑の大将(青)



おすすめの石灰資材 吸収しやすく早く効く！ 酸性土壌の中和と、作物へのカルシウム補給に使います。

pHの詳細な説明はP25へ ▶

知っておきたいルールとポイント

遅れすぎても早すぎても失敗の原因に「栽培適期」

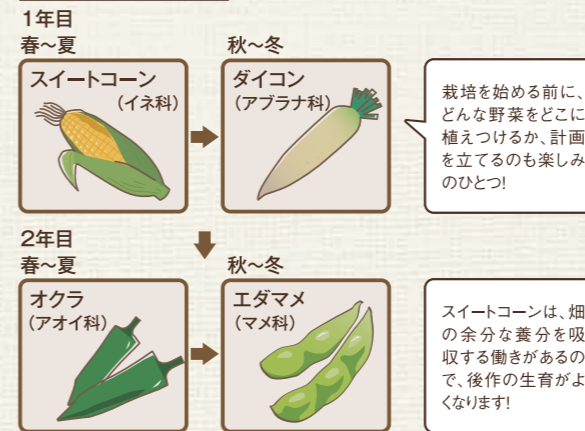
どんな野菜も、適期に種をまいたり、苗を植付けることが大切です。種まきや植付けの適期は、育成が間に合い、できるだけ病害虫の被害や生理障害が軽減できる時期に設定されています。なお、同じ種類の野菜でも、品種や栽培する地域によって適期は異なってきます。種袋や苗のラベルをよく確認し、適期を逃さないようにしましょう。

同じ種類や同じ科の野菜を毎年つくり続けると連作障害が

- 連作障害を起こしやすい：ナス科・マメ科・ウリ科など
- 連作障害を起こしにくい：ニンジン・カボチャ・コマツナなど

同じ種類の野菜はもちろん、同じ科の野菜を続けて同じ場所で栽培すると、連作障害が出やすくなります。これは、違う科の野菜を順繰りに栽培する「輪作」をすることで防ぎます。ローテーションを考えて栽培しましょう。

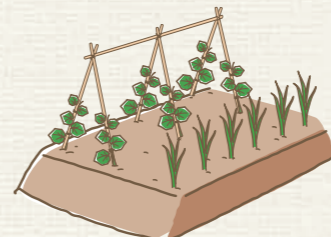
ローテーションの例



野菜自身の性質を活かしたコンパニオンプランツの考え方

植物の持つ成分により、虫を寄せつけなかったり、近くにある植物のある成分を増やしたりといった現象が起こります。一緒に植える植物の相性で、よい結果が生まれる植物を「コンパニオンプランツ(共栄植物)」といいます。

特に葉草として扱われることの多いハーブ類は、植物に対しての有効成分も多く含むので、野菜と一緒に植えると害虫を予防するだけでなく、味をよくする効果も期待できます。



キュウリは長ネギと一緒に植えると「つる割れ病」の予防になります。

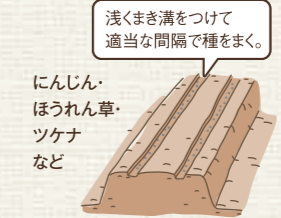
「直まき」と「移植栽培」、2種類の種まき方法

直まき

ダイコンやニンジンなど直根性の野菜や、短期間に育成するものは直まきをします。「条まき」や「点まき」という播種方法があります。

条まき

葉茎に十分光を当てたい野菜に浅くまき溝をつけて、適当な間隔で種をまく。



点まき

1箇所3～6粒ずつ種の間を空けて播きます。



移植栽培

気温が安定しない時期にまきたいときや、発芽率の低い野菜、病害虫の被害を受けやすい野菜などは、移植栽培をします。



種まき後の水分管理には十分注意を

種は、いったん水分を吸収すると発芽に向けて動き出します。この後に乾かしてしまうと、たとえ芽が出ていなくても、種は枯死してしまいます。地上部がないためつい油断しがちですが、種をまいて芽が出るまでこそ、土を乾かさないように注意しましょう。



害虫は早い時期ほど、しっかり防除

適期内に栽培をスタートしても、気温が高いうちは害虫の活動が活発です。しかも育成初期の被害ほど致命的になりやすいので、種まきや植付けの直後からしっかり防除することが大切です。

- 薬剤を使って防除する場合
野菜と害虫の種類ごとに使える薬剤が決まっているので、注意書きをよく読んで正しく使いましょう。
- 無農薬栽培をめざす場合
種まきや植付けの直後から防虫ネットをかけて害虫の侵入を防ぎましょう。



ネット栽培は、害虫防除だけではなく、防寒の効果もあります！

これがあると、とっても便利。 栽培カレンダー

上手に育てるには
種まき時期が大切!

◎…直まき ●…種まき ×…植付け・定植 ■…収穫 ○…新株植付け

野菜	作型/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ジャガイモ (ナス科)	春作(マルチ)		×	-----	×		■	■	■	■			
	秋作									×		■	■
エダマメ (マメ科)	冷涼地				●	×	○	■	■	■			
	中間地				●	×	○	■	■	■			
ネギ (ユリ科)	春まき		●	●	●	×	×	■	■	■	■	■	■
	夏まき	■	■					●	×			■	■
ピーマン (ナス科)	露地栽培		●		×		■	■	■	■	■	■	■
カボチャ (ウリ科)	移植栽培				●	×		■	■	■			
	直まき栽培				○		■	■	■				
スイートコーン (イネ科)	暖地(マルチ)				○	○		■	■				
	中間地(マルチ)				○	○		■	■				
	冷涼地(マルチ)				○	○		■	■				
オクラ (アオイ科)	露地栽培				○	○		■	■	■	■	■	
トマト (ナス科)	露地栽培					×		■	■	■	■	■	■
	中間地					×		■	■	■	■	■	■
	暖地			×			■	■	■	■	■	■	■
キュウリ (ウリ科)	露地早熟					×		■	■	■	■	■	■
	一般地					×		■	■	■	■	■	■
	直まき					○	○		■	■	■	■	■
ナス (ナス科)	露地栽培					×		■	■	■	■	■	■
	中間地					×		■	■	■	■	■	■
	暖地					×		■	■	■	■	■	■
サツマイモ (ヒルガオ科)	早掘り栽培(マルチ)					×		■	■	■	■	■	■
	普通掘り栽培					×		■	■	■	■	■	■
ダイコン (アブラナ科)	冷涼地							○	○	■	■	■	■
	中間地	■	■					○	○	■	■	■	■
	暖地	■	■	■				○	○	■	■	■	■
キャベツ (アブラナ科)	露地栽培							●	×	■	■	■	
ハクサイ (アブラナ科)	中間地							●	×	■	■	■	■
	年内~冬どり	■	■					●	×	■	■	■	■
タマネギ (ユリ科)	中間地・暖地									●	●	×	×
	極早生					■				●	●	×	×
	早生					■				●	●	×	×
イチゴ (バラ科)	トンネル栽培				○	○					×		
	露地栽培				○	○					×		

※栽培カレンダーは、目安です。地域や品種によって栽培時期は異なります。

ジャガイモ

ナス科

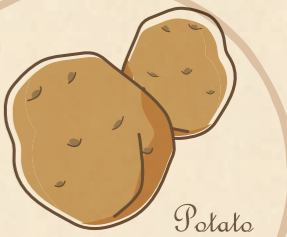
主な品種

春作: 男爵、メークイン、キタアカリ、インカのめざめ
秋作: デジマ、ニシユタカ

家庭菜園ジャガイモの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春作(マルチ)			×	---	×		■						
秋作									×			■	■

× 植付け ■ 収穫

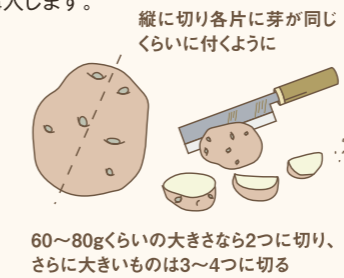


栽培のPoint

- ◎ジャガイモはナス科の野菜で、地下部の茎が肥大して塊状になったもの(塊茎)です。
- ◎原産地は、ペルー、ボリビアのアンデス山系の標高2000~3000mの地帯といわれています。冷涼な気候を好み、栽培適温は15~20℃です。塊茎の形成は17℃を適温とし、高温になるほど肥大が悪くなります。

1. 種いも

- ジャガイモは「二度いも」と呼ばれ、1年に2回収穫することができますが、春は春作用の品種、秋は秋作用の品種を植付けます。
- いもで伝染する病害が多いので、植物検疫所の防疫検査に合格した種いもを毎作購入します。
- 芽が1個以上あれば生育しますが、1片30~40gになるよう必ずタテ割りに切ります。



60~80gくらいの大きさを2つに切り、さらに大きいものは3~4つに切る

2. 畑の準備

砂壤土が適し、有機質に富んでいること。連作はできません。1年以上の輪作が必要です。また、センチュウ、そうか病などいもの肌がきたなくなった畑は5年程度作付けを休めます。

3. 施肥

- 土壌がアルカリ性になるとそうか病が発生しやすくなるので、石灰肥料は少量にとどめます。草木灰を使うのは好ましいことではなく、特に切り口に草木灰をまぶすのはよくありません。
- マルチ栽培*では全量元肥に施します。植付けから着蕾期までよく効いて生育を促進し、後期は効かないようにします。

施肥例: マルチ栽培 (10m²当たり)

種類	元肥
苦土石灰*	0.5kg
油かす	1kg
化成肥料	0.5kg

one point advice

ワンポイントアドバイス

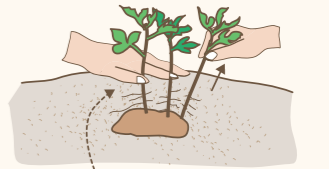
連作はできません。トマト・ナス・ピーマンなど、ナス科の野菜の前作や後作は避けましょう。適齢(1~2茎期)にある種いもを使って、強いほう芽をさせ、植付けを適期に行います。施肥は初期(植付けから着蕾期まで)によく効かせて生育を促進させ、その後は効きすぎないようにします。植付け密度を適正にして、茂りすぎによる徒長を避けます。



1茎期 2茎期

4. 植付け

- うね幅90cm、株間30cmの1条植えまたは、うね幅110cm、株間30cmの2条植えとします(メークインは男爵より広めの35cm)。
- 植付ける深さは種いもの厚さの3倍程度(10~13cm)のところに、切り口を下にして植付け、覆土します。



たくさん芽が伸びてくるので勢いのよいもの2本を残して他は取り除く。種いもを引き上げないよう株元を押さえ、斜めの方向にかき取るとうい。

【春作マルチ】

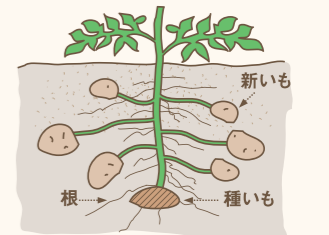
- 春作では生育を早めるとともに、雑草防除も兼ねてマルチ栽培をします。
- 平均気温が10℃くらいになる2月下旬~3月上旬が植付けの適期です。
- マルチ栽培では種いもを植付けた後に一度雨に当て、その後うね全面にマルチします。
- 約1か月後に芽が生育してきますので暖かい日を選んでカマなどでマルチを破り、芽を出します。
- 芽は草丈が10cm程度に伸びた頃、1~2芽を残し弱い芽をかき取ります。ジャガイモの花は摘み取る必要はありません。

【秋作】

- 高温期の植付けになるので種いもが腐らないよう以下のことに注意します。
- 1. 種いもは明るい室内に並べ、緑化させます。
- 2. 植付けの2日ほど前に切り、涼しいところで乾燥させます。
- 3. 植付けは朝夕の涼しい間に行います。
- 4. やや小型の種いもを切らずに丸ごと植付けると腐りが少なくなります。

5. 収穫

- 植付けから3か月~3か月半、葉が黄ばんできたら天気の良い日を選んで収穫します。
- 収穫後は1週間程度風通しのよいところで乾燥させた後、暗いところに貯蔵します。



種いもの上方に伸びた茎の先端が太っていもになる

エダマメ

マメ科

主な品種
富貴、ユキムスメ、
サッポロミドリ、
快豆黒頭巾

家庭菜園エダマメの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地					●	○	■	■	■	■			
中間地				●	○	■	■	■	■	■			
暖地			●	○	■	■	■	■	■	■			

● 種まき ○ 育苗 × 植付け ◎ 直まき ■ 収穫



栽培のPoint

- ◎エダマメ専用品種を使います。エダマメはダイズの中のひとつの系統ですが、ダイズとして栽培している系統は春まきしても茎や葉が伸びるだけで、なかなか花がつきません。
- ◎肥料はリン酸を多く、窒素は控えめに。窒素肥料が多すぎると茎や葉が茂りすぎて、着花不良になります。
- ◎前作の肥料の残り具合を考えて、施肥設計を立てましょう。

1. 育苗

- 3月に種をまく早熟栽培の場合は、小型のトンネルを設けて育苗します。苗床は無肥料とし排水のよい土を選びます。
- 育苗期間は通常3週間程度です。低温期はより日数がかかります。
- 5月以降は直まきでOKです。収穫適期が短いので何回かにずらしてまきます。

2. 畑の準備

- エダマメは過湿や酸性土壌に弱いので、排水のよい畑を選び苦土石灰*などを早めに施用して、酸度矯正しておきます。また収量を高めるには土づくりが大切で、そのために乾燥牛ふん、バーク堆肥などを10m²当たり20kg施用します。
- 連作は、種々の土壌病害が多発し、いや地現象も加わって収量・品質が低下するので避けます。

3. 施肥

- 根に寄生する根粒菌の働きで空気中の窒素を取り込むのでリン酸、カリ主体の施肥をします。
- 追肥は本葉2~3本の頃、除草と土寄せ*を兼ねて行います。
- 2回目の追肥は開花が始まるまでに完了します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰	1.5kg		
PK肥料(0-20-20)	0.5kg		
化成肥料(8-8-8)	0.5kg	0.4kg	0.5kg

4. トンネルの準備

早熟栽培では、うね立て*、元肥の施用が終わると、早めにトンネルを設け、ビニールを展張、かん水*して地温を高めておきます。

5. 播種・定植

- 早熟栽培では、うね幅90cm、株間15cmの2条植えにします。子葉が開き、初生葉(複葉)が見え始める頃に苗を1本植えします。定植が遅れると植え傷みがひどいので注意します。
- 露地栽培では、うね幅90~120cm、株間20~25cm、2条植えで、1カ所2~3粒ずつ種をまきます。播種後、鳥害を防ぐために寒冷紗*で覆い、初生葉が開いた頃、1~2株に間引きします。

定植適期の草姿



6. 土寄せ

除草に加え、根粒菌の活動を活発にし、倒伏を防ぐなどの目的のため、土寄せ作業をします。1回目は本葉2~3枚の頃土寄せし、2回目は分枝し開花するまでの間に子葉部が隠れるまで大きく土寄せします。



7. 収穫

過熟になると食味が低下するので株際に少し未熟なサヤがあるときから収穫を始め、同じ播種期の作型のものでは4~5日で収穫を終るようにします。

ネギ

ユリ科

主な品種
九条細(浅黄系・春まき用)、
奴(夏まき用)

家庭菜園ネギの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき				●	○	■	■	■	■	■			
夏まき						●	○	■	■	■	■	■	■

● 種まき ○ 育苗 × 植付け ■ 収穫



栽培のPoint

- ◎古い種を使わないことが大切です。
- ◎酸性に弱い(好適pH6.0~6.5*)ので、必ず酸度を矯正しておきます。
- ◎湿害に弱いので、水はけの悪い、雨水がたまるような場所は避けてください。

1. 育苗

- 1年以上経過した種子は発芽率が低下するので、必ず新しい種子を使用します。苗床10m²当たり乾燥牛ふん20kg、苦土石灰*1~1.5kgを全面に散布し、元肥として化成肥料を施し、90cm幅くらいの平うねをつくりまします。うねを均平にし、幅15cm、4条のすじを切り、種子を条にまき、種子が隠れる程度に覆土して、十分かん水*します。
- 早春まきでは、ビニールの小型トンネルをかけ保護し、夏まきでは寒冷紗*をトンネルがけにするか、ベタがけし乾燥を防ぐとともに、雨にたたかれないようにします。ただ、寒冷紗をベタがけした場合には、発芽が始まれば急いで取り除きます。

2. 畑の準備

ネギは耐湿性の弱い野菜なので、排水のよい畑を選び、苦土石灰を全層に散布して酸度を矯正しておきます。連作しても大きな連作障害はないものの、土がやせ、生育は悪くなります。そのため、有機物を多く施用し、土づくりに努めます。

3. 施肥

ネギは肥やけを起こしやすく、一度に多く施すのは禁物です。追肥には油かすなどの有機質肥料を中心に施します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰	1.5kg		
なたね油かす(5-2-1)	1kg	1kg	0.5kg
高度化成肥料(14-10-13)	1kg	0.5kg	0.5kg

4. 定植

- うね幅90cmのうねに2条植え、あるいは120cmのうねに4条植えします。
- 苗は草丈20cmで葉が3~4枚のものを苗床から掘り上げ、株間15~20cmに3~4本まとめて1株として植えます。



5. かん水*

定植後、乾燥時には活着するまでかん水を続けます。かん水が不足すると基部の肥大(らっきょう玉)が発生するので、特に生育の初中期は乾燥させないように注意します。

6. その他

- 夏季に栽培する場合は、条の間にわらを厚く敷き乾燥を防ぎます。
- 冬期には凍害を防ぐため、晩秋に株元に土寄せ*をしておきます。
- 追肥のつど、除草を兼ねて、中耕・土寄せ*をしてやります。



7. 収穫

収穫は生育中いつでも間引きして利用できます。また、葉だけをつんでも次の芽が再生します。用途に応じて適当な時期、適当な大きさで収穫しましょう。

one point advice

ワンポイントアドバイス

エダマメ収穫の適期は、開花後30日頃です。収穫適期が遅れると子実が固くなり、サヤが黄変して風味が悪くなります。スイートコーンと同様、時間の経過とともに食味が落ちますので、ビールのおつまみなどには、自家栽培のものが1番です。

one point advice

ワンポイントアドバイス

春まきのネギや前年のネギを7月下旬に掘り上げ、2~3週間乾燥させて8月中下旬に「干し苗」として株元15cmほどを残して葉先を切り捨て植付け、10月から収穫する栽培法もあります。家庭菜園では、8月に園芸店でこの「干し苗」を購入して栽培する方法もあります。

ピーマン

ナス科

主な品種
京みどり、甘とう美人、伏見甘長、フルービーレッド(パプリカ)、鷹の爪(トウガラシ)

家庭菜園ピーマンの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培				●	○	×							

● 種まき ○ 育苗 × 植付け ■ 収穫



Green pepper

栽培のPoint

- 中果で辛みのないものを「ピーマン」、小果で辛みのないものを「シントウ」、小果で辛みのあるものを「トウガラシ」、大果で辛みのないものを「パプリカ」と呼んでいます。
- 発芽適温20～30℃、生育適温：昼間25～30℃、夜間15～20℃、地温22～25℃と、ナス科野菜の中で特に高温を必要とする野菜です。したがって、早くから種をまいたり、苗を植付けるのは禁物です。

1. 育苗

- 通常は購入苗を利用しますが、育苗する場合は、比較的高めの温度で管理します。
- 定植時の植え傷みを避け、着果を安定させるため、5号ポリ鉢に鉢上げし、大苗に育苗します。

2. 畑の準備

ナス科は連作を嫌うので、保水性があり、排水のよい、前作にナス科の作付けをしていないほ場を選び、堆きゅう肥などの有機物を多量にすき込み、根が深く張るように土づくりを行います。ピーマンは酸性土壌に弱いので、苦土石灰*などを施し中性に近づけておきます。

3. 施肥

多肥を好む作物です。有機質肥料主体の施肥で、土壌の塩類濃度障害を防ぎます。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥(月1回程度)
苦土石灰	1kg	
配合肥料(9-8-7)	1kg	1kg
化成肥料(8-8-8)	0.8kg	

4. 定植

うね幅1.5m、株間40～50cm、1条植えにします。1番花開花の頃の苗を、深植えにならないように定植します。



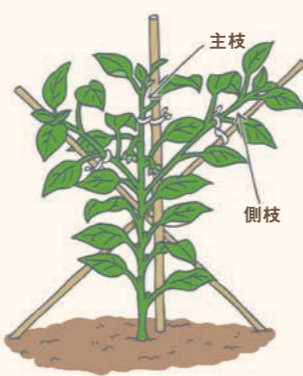
one point advice

ワンポイントアドバイス

ピーマンは、花が咲いてから6～8月は20日、9月以降は30日で収穫できますが、パプリカは花が咲いてから収穫まで50～60日かかりますので、あせらずに育てましょう。なお、着果数の多い時期と少ない時期を約1か月ごとに繰り返します。追肥・かん水・整枝・せん定などをきちんと行って、株の栄養状態をよくすることが大切です。

5. 整枝

ナス栽培と同じように、第1花(果)の着生した枝とその直下から出る枝、さらにその下から出る枝を残し3本仕立てにします。それから下の節から出る芽(側枝)は全部摘除します。強固な支柱を立て、針金を引き、ポリテープで枝をつり上げ誘引します。



6. 敷わら・かん水*

梅雨があけて高温期に入ると、土壌の乾燥はげしくなるので、うね上面に敷わらなどを行います。さらに、うね間かん水をひんばんにして、土壌の水分保持に努めます。これは、ハダニ類の発生抑制、日焼け果、尻腐れ果の発生防止などからみても極めて重要な管理作業です。

7. 収穫

枝が折れやすいので、収穫は必ずハサミを用います。



カボチャ

ウリ科

主な品種
えびす、ほっこり姫、はやと(日本種)

家庭菜園カボチャの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
移植栽培					●	○							
直まき栽培					●	○							

● 種まき ○ 育苗 × 植付け ◎ 直まき ■ 収穫



Pumpkin

栽培のPoint

- 発芽適温25～30℃、生育適温20～25℃で、生育、開花、結実には高温を必要とする野菜です。
- 肥料をやりすぎないことが大切です。多肥になると葉が大きく、つるも太くなり、着果がしにくくなり、病気も発生しやすくなります。

1. 育苗

- トロ箱または育苗箱に条まきし、ビニールで覆い保温します。子葉展開時に鉢上げします。
- 鉢育苗は30～35日で定植します。

2. 畑の準備

- 土性は特に選びませんが、排水のよい畑を選び、湿害を避けるため高うねにしておきます。
- 植付けは地温が15℃以上になる頃に行いますが、植付け直後の遅霜などの心配があるときはホットキャップで保温します。



3. 施肥

追肥は1回目を雌花の開花前に中耕*を兼ねて施し、2回目は1番果が80%程度着果した頃、つるの先端の位置に施します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰*	1kg		
ナタネ肥料(5-2-1)	1kg	0.8kg	0.8kg
化成肥料(8-8-8)	0.4kg	0.4kg	0.4kg



one point advice

ワンポイントアドバイス

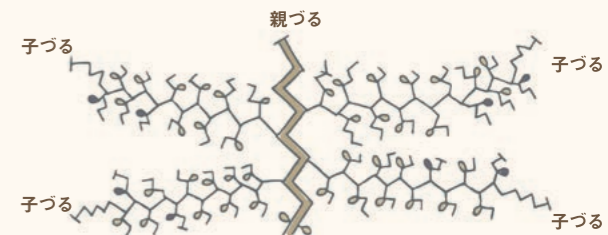
カボチャには日本カボチャ、西洋カボチャ、ペポカボチャなどがありますが、現在は甘みが強く肉質が密な西洋カボチャが栽培の中心になっています。またカボチャは収穫が早すぎると食味が大幅に劣りますので、必ず完熟させて適期に収穫することが大切です。

4. 定植

- うねは、幅3m、株間60cmとします。定植前にうね全面に十分かん水*して、マルチをして2～3日間地温を高めてから定植します。
- 畑に直まきする場合は、土を盛り1カ所3粒程度を点まきします。

5. 摘芯*、整枝

本葉5～6枚のとき、子づるの発生を揃えるため、親づるを摘芯します。子づるは3～4本仕立てとし、弱い子づるは摘除します。



6. 摘果*、玉直し

子づるの4～5節に着果すると草勢を弱めるので摘果し、8～9節に第1果を着果させます。収穫5～7日前に収穫果全面が着色するよう玉直しを行います。

7. 収穫

- 日本カボチャと西洋カボチャで収穫日数が異なります。
- 日本カボチャは花が咲いてから25～30日、果面がやや褐色となり、白い粉が吹き始めた頃が適期です。
- 西洋カボチャは花が咲いてから45～50日、爪を立てても傷が付かないほど固くなった頃が適期です。

スイートコーン

イネ科

主な品種

おひさまコーン、ゆめのコーン
キャンベラ86、ピーターコーン

家庭菜園スイートコーンの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
暖地(マルチ)					◎	◎		■					
中間地(マルチ)					◎	◎		■					
冷涼地(マルチ)					◎	◎		■					

◎直まき ■収穫



栽培のPoint

スイートコーンは、温暖な気候と適度な水分が必要です。低温には弱く、霜にあうと枯死し、12℃以下の低温や35℃以上の高温になると、生育が緩慢となります。また、実入りも悪くなり、品質が低下します。

吸肥力が強い作物なので、跡地がやせる関係上、連作は避けま

す。うねは南北に立てましょう。

1. 畑の準備

●スイートコーンは根が深く張るので、耕土の深い、保水性のある畑が適します。やせ地でしかも浅耕土の場合には、夏期に干ばつの被害を受けやすいので、作付け地は有機物の施用と深耕で土づくりを十分に

に行います。
●植付けの2週間前に苦土石灰*を散布し、1週間前に元肥を混和し、うねを立てます。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰	1kg		
ナタネ肥料(5-2-1)	1kg	0.5kg	0.5kg
化成肥料(8-8-8)	0.8kg	0.5kg	0.5kg

2. 播種

- 無理な早まきを避け、最低地温が13~14℃以上になるのを待ってから種をまきます。
- ポリマルチでマルチ栽培*をすると地温の確保ができ、少し早まきできると、初期生育を早める効果があります。
- 収穫適期は7日程度と短いので、連続して収穫する場合には何回かに分けて種をまきます。
- 2条まきでうね幅1m、1条まきでうね幅60cm、それぞれ株間30cm、1カ所2~3粒ずつ点まきます。
- ハトやカラス等が多いところでは、播種後は防鳥ネットを張り食害を防ぐか、苗づくりを行い移植します。
- 苗づくりを行う場合には直径9cmのビニールポットに培養土を入れ、3~4粒の種をまき、十分に水を与えます。濡れ新聞で覆い、日なたなど暖かいところで発芽させます。約1ヵ月育苗し、定植します。
- 移植する場合は、葉色が濃く、活き活きしているものを定植します。栽植密度は直まきと同様です。



one point advice

ワンポイントアドバイス

スイートコーンは近くに他の品種が栽培されていると、その花粉が風で飛んできて受粉し、粒の色や味の異なる実をつけることがあります。これを防ぐには、異なる品種の混植を避けたり、隣接する畑と適当な距離を保つことが大切です。

3. 追肥

●追肥の1回目は本葉2~3枚のとき、2回目は本葉5~6枚のとき、マルチを少し破り株と株の間に施します。

4. 間引き

- 本葉4~5枚の頃、生育のよいものを残し、それ以外の不良株を間引き、1本立ちにします。
- 間引く株は引き抜かないでハサミやナイフなどで株元から切り取ります。



5. 土寄せ*

●倒伏防止のために、本葉5~6枚のとき株元に土寄せを行います。



6. 無除けつ、摘果(穂)*

- 株元から分けつする茎が出てきますが、雌穂が大きく育ち、かつ果穂先端の不稔も少なくなることや、倒伏防止にもなるので除けつはしないようにします。
- 通常の栽培では果穂は2穂程度できますが、上の雌穂を残し、下の雌穂を早めに除くと大きな果穂が収穫できます。



7. 収穫

- 収穫は果穂の先から絹糸(ヒゲ)が出た後20日程度で、黒褐色に変わった頃です。
- 実の部分をつかむと充実した手応えがあります。
- 収穫は朝早く、気温の低いうちに、収穫後は時間の経過とともに食味が低下しますので、すぐにゆでておきます。



オクラ

アオイ科

主な品種

グリーンソード、
アーリーファイブ

家庭菜園オクラの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培					◎	◎		■					

◎直まき ■収穫



栽培のPoint

◎直根性で、吸肥力が強く、排水のよい肥沃な土壌が適しています。特に、過湿によって生育不良になりやすいので、排水対策が必要です。

◎発芽適温28~30℃と高温を好み、早まきすると発芽率も悪く、発芽日数もかかりますので、種まきは4月下旬以降です。

1. 育苗

- オクラの根は、直根性で細根が少ないため、一般的には直まきをします。
- 育苗する場合は、ビニール被覆した温床を用意します。種子を一昼夜微温湯に浸漬して吸水させ、6cm間隔に条まきします。発芽後、本葉が出始めた頃、根を傷めないように9cm鉢に移植します。
- 購入苗を利用する場合は、若苗を定植します。

2. 畑の準備

センチュウに弱く、連作を嫌うので、数年間は他の作物を栽培した畑を選びます。土性は選びませんが、排水がよく有機質に富む肥沃な畑が適します。収穫期が真夏になるので、乾燥しないよう切わらや乾燥牛ふんなどを十分にすき込み、地力を高めておきます。

3. 施肥

追肥は着果確認後から2~3日に分けて与え、肥料切れをさせないようにします。

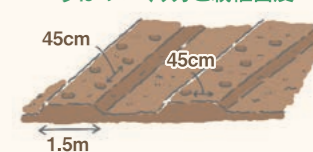
施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥(月1回程度)
苦土石灰*	1kg	
ナタネ油かす(5-2-1)	1kg	0.5kg
化成肥料(8-8-8)	0.8kg	0.5kg

4. 播種・定植

- 苗を植える場合は、うね幅1.5m、株間45cm、2条の千鳥植えに定植します。
- オクラの生育適温は25~30℃と高いので、小型トンネルを被覆すると初期生育は促されます。
- 直まきする場合は1カ所に4~5粒ずつ直径8cmほどの円内に離してまき、1cmの厚さの覆土をかけます。本葉4~5枚の頃、1~2本に間引きします。

うねのつくり方と栽植密度



ほ場に余裕があれば通路を広くすると、収穫管理作業がやりやすい。

5. 中耕、土寄せ*

追肥の際、除草を兼ねて中耕を行い、倒伏防止のために株元に土寄せします。

6. 敷わら

梅雨あけ後、盛夏に入るまでに、敷わらをして土壌の乾燥を防ぎます。

7. 摘葉

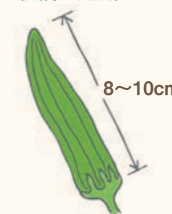
葉が茂りすぎると光線不足になって、サヤ付きが悪くなりますので、収穫のたびに節の下の1~2葉を残して下葉を取ります。こうすれば風通しもよくなり、病害の発生も少なくなります。



8. 収穫

6月で開花後7日、8月で5日ぐらいの約8~10cmの幼果を収穫します。収穫が遅れると、すじも多く硬くなって品質が低下し、その後の収量にも大きく影響します。収穫遅れのないように注意します。

収穫の適期



one point advice

ワンポイントアドバイス

オクラは若サヤを収穫するものですが、同じアオイ科の仲間では花の直径が10~20cmもある「花オクラ」(別名:トロアオイ)と呼ばれるものがあります。「花オクラ」は春まきの草花として観賞用に栽培され、サヤは食べてもまずく、花をポン酢で味を付けて食べることができます。栽培はオクラと同じ要領で行います。

トマト

ナス科

主な品種
桃太郎、サターン、フルティカ(中玉)

家庭菜園トマトの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培	冷涼地					X							
	中間地					X							
直まき	暖地				X								

X 植付け ■ 収穫



Tomato

栽培のPoint

- トマトは連作を嫌います。3年ほどナス科作物(ナス、トマト、ジャガイモなど)を植えていない畑を選びましょう。
- 過湿を嫌うので、排水がよい畑を選びます。
- 最暑月に石灰欠乏により尻腐れ果が出やすいので石灰分を十分に与えます。
- 着果不良になると、草勢が強くなりすぎるので、ホルモン剤等を使用して着果促進を図ります。

1. 畑の準備

幅1.5mのうねを立てておきます。

2. 肥料

- 石灰欠乏が出やすいので、元肥に石灰質肥料を施します。
- 元肥が多く、第1花房の開花時に窒素成分が多いと、落花しやすいので注意します。
- 1回目の追肥は、1段目の花房の着果を確認してから施用します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1 (月1回程度)	追肥2 (月1回程度)
苦土石灰*	1.5kg		
配合肥料 (9-8-7)	0.6kg	0.4kg	0.4kg
化成肥料 (8-8-8)	0.4kg	0.4kg	

3. 苗の準備

- 種苗店などで苗を購入しましょう。
- 定植する苗は1番花が開花直前のものがよいので、購入した苗が若苗の場合は4号ポットなどに移植して育苗します。



4. 定植

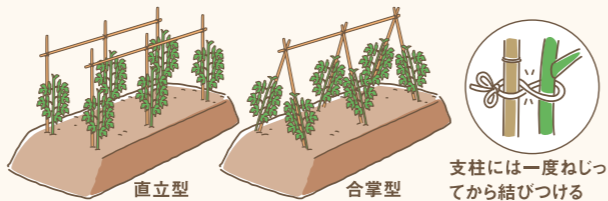
- 株間35~40cmで2条植えにします。
- 苗は本葉7~10枚で第1花房の開花前後を見定めて、植穴に置き、株元に土を盛るように浅植えにします。
- 定植時に粒剤を株元に散布しておくとおアブラムシ類、コナジラミ類を防除できます。

one point advice
ワンポイントアドバイス

トマトは少し早めに収穫しても室内に置けば赤く色付いてきます。これを「追熟現象」といいますが、家庭菜園ならではの醍醐味は、夏の太陽をいっぱい受けて、株で赤く色付き、完全したトマトが食べられることです。栄養価も追熟させたトマトに比べて高いので、ぜひ完全させたトマトを収穫しましょう。

5. 整枝

- トマトの地上部は重く、折れやすいので、株ごとに支柱を立てます。
- 支柱同士を針金が支柱で結びつくと、より安定します。



6. ホルモン剤処理

- 完全に開花した花が3花以上ある状態でトマトーン等のホルモン剤を晴れた日の午前中に処理すると着果肥大がよくなります。
- 特に第1果房は草勢を安定させるため確実に着果させます。
- 開花した花だけを指の間から出して、つぼみや新芽にかからないように注意します。

ホルモン剤の散布方法

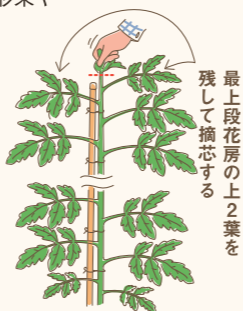


7. 摘芽、摘花(果)*

- 各節から出るえき芽(わき芽)は摘み取り、1本立てにし支柱に誘引します。なお、摘芽は草勢が強い場合には、早めに摘み取り、草勢が弱い場合には遅らせます。
- 摘果は品種や栽植密度によって異なりますが、ふつう1果房で3~5果つけるのが適当です。変形果や病気のあるものは早めに取り除きます。

8. 摘芯*

- 支柱(1.8m)の上ぐらいまでの高さになったら、最上段の花房の上2葉を残して摘芯します。
- 6~7段目(下からの花房の位置)くらいが摘芯の位置です。



9. 尻腐れ症(石灰欠乏)

- 花落ち部分に変色して腐ります。
- 石灰欠乏が原因で、元肥に石灰質肥料を施すとともに、土壌の乾燥により発生が増加するので、十分にかん水*します。



キュウリ

ウリ科

主な品種
夏すずみ、北進、シャキット

家庭菜園キュウリの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培	冷涼地					X							
	一般地					X							
直まき	冷涼地												
	一般地												

X 植付け ○ 直まき ■ 収穫



Cucumber

栽培のPoint

- ウリ科野菜(スイカ、トウガン、ゴーヤ、カボチャ)との連作は避けましょう。
- 寒さに弱いので、4月植えではトンネルを張り、寒さを防ぎます。

1. 畑の準備

1条植えなら、幅1.5m。2条植えなら、幅2mでうねを立てておきます。

2. 肥料

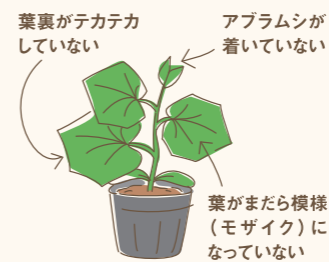
元肥はうね立て時*に土に混ぜ込み、追肥は根傷みを防ぐため、株元から離して施します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥(月1回程度)
苦土石灰*	1kg	
配合肥料 (9-8-7)	1kg	0.4kg
化成肥料 (8-8-8)	1kg	0.4kg

3. 苗の準備

- 家庭菜園では種苗店で苗を購入するとよいでしょう。
- 苗を育てる場合は3号ポットに2粒点まきし、砂などで軽く覆土します。
- 畑に直まきする場合は、まくところをやや高く盛り、1カ所に2~3粒点まきし覆土します。



4. 定植

- 1条植えなら株間50cm、2条植えなら株間55cmで植付けます。
- 地際部が湿つくと病気が発生するので、乾燥させるため、浅植えにします。
- 黒マルチは定植前にうねに張っておきます。
- マルチは梅雨以降は根が蒸れるので、6月以降はできるだけ取り去り、稲わらでマルチを行います。



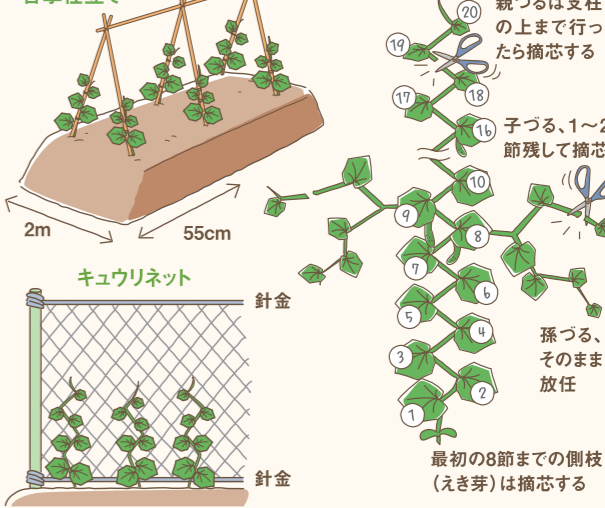
one point advice
ワンポイントアドバイス

キュウリは花が咲いてから7~10日後で収穫できます。収穫始めは実の長さ約20cm、重さ70~80gのものを目安に収穫し、最盛期は100~130gの範囲で収穫します。午前中の涼しいうちに収穫し、最盛期は朝夕2回収穫する必要があります。

5. 整枝

- 支柱を1.8m前後に立てて誘引するか、キュウリネットを張ります。
- 一般に下位節から8~10節の側枝は全て取り除き、9~15節は1~2葉残し摘芯*します。その後は垂れた葉や側枝を除く程度に管理します。
- 下部の罹病葉や老化葉の摘葉に努め、採光・通風をよくします。
- 中位の側枝の発生を進めるため、上位が混み合って大きな葉が出てくると摘葉し、採光を図ります。

合掌仕立て



6. ホルモン剤処理

- 収穫遅れの果実があると樹勢が衰えるので、よく見回り適期収穫に努めます。
- 変形果や曲がり果は樹勢が衰えると出やすくなります。変形果は早めに取り除き、追肥、かん水*などの管理を丁寧に行い、樹勢の回復を図ります。

ナス

ナス科

主な品種

千両2号、水なす

家庭菜園ナスの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培	冷涼地					X							
	中間地					X							
	暖地					X							

X 植付け ■ 更新せん定 ■ 収穫



Eggplant

栽培のPoint

- ナスは連作障害による土壌病害に冒されるため、前作にナス科の作物を植えていない畑を選び、計画的に輪作を行いましょう。連作畑では接ぎ木苗を用いると軽減されます。
- 多湿を好むため、十分に水をやりましょう。
- 特に植付け直後は株元にたっぷり水をやりましょう。

1. 畑の準備

- 2~3年連作すると土壌病害に冒されるので、できるだけ前作にナス科(ナス、トマト、ジャガイモなど)の野菜を植えていない畑を選びましょう。
- 土質は特に選びませんが、砂の多い土では早く実がなり、耕土が深くて粘土の多い、水利の便のよいところでは良質生産ができます。
- ナスは栽培期間が長いので、定植前に稲わら、乾燥牛ふん、バーク堆肥などの有機質資材を投入し、深く耕して土とよく混ぜ、土づくりを積極的に行います。
- 幅1.4~1.5mのうねを立てておきます。

2. 肥料

- ナスは多肥を好む作物です。
- 化成肥料をやりすぎると濃度障害が出ることもあるので、有機質肥料を主体に肥料を施しましょう。
- 苦土(Mg)成分を好むので苦土石灰*などを施します。
- 追肥は1か月に1回を目安に行います。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥(月1回程度)
苦土石灰	1kg	
配合肥料(9-8-7)	1.5kg	1kg
化成肥料(8-8-8)	0.8kg	

3. 苗の準備

- 種苗店などで接ぎ木苗を購入しましょう。
- 定植する苗は1番花が開花直前のものがよいので、購入した苗が若苗の場合は5号ポットなどに移植して育苗します。

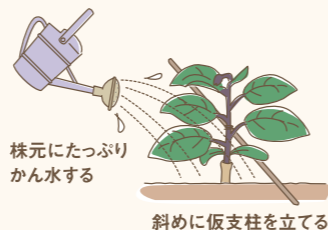


4. 定植

- 株間45~50cmの1条に定植します。
- 定植時に株元に十分かん水*することが活着、初期生育を早める上で大切なポイントとなります。

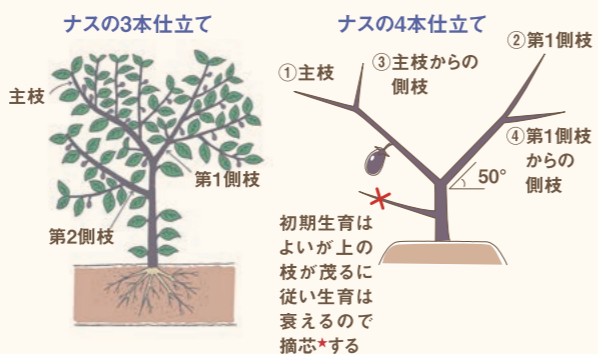
5. 水やりのポイント

- ナスは全生育期間にわたって多湿を好むため、かん水を十分行います。
- 6月以降は、うねとうねの間に水を流す「うね間かん水」などで積極的に水をやり、追肥のやりすぎなどによる濃度障害を防ぎます。



6. 整枝

- 第1花(果)が咲く枝(主枝)とその上から出る枝(第1側枝)、そして第1花の下から出る枝(第2側枝)を伸ばし3本仕立てにする場合と、第1花(果)が咲く枝とその上から出る側枝、そして第1花のすぐ下から出る枝、さらにその側枝との4本仕立てにする場合の2つの方法があります。いずれの仕立て方もその下から出る枝は早めに摘み取ります。
- 栽培期間が長く、草丈も高くなるので、丈夫な支柱を立て、針金を引き、ポリテープで枝をつり上げて誘引します。
- 横から見た枝の形がV字型になるように整枝を行います。



サツマイモ

ヒルガオ科

主な品種

高系14号(なるど金時)、ベニアズマ

家庭菜園サツマイモの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早掘り栽培(マルチ)	早掘り栽培					X							
	普通掘り栽培					X							

X 植付け ■ 収穫



Sweet potato

栽培のPoint

- サツマイモは根が肥大した塊根です。中央アメリカが原産で、熱帯では多年生ですが、日本では冬季低温で枯れてしまうので、一般に栽培する場合には1年生草本として取り扱われます。温暖な気候を好み、茎葉が茂る頃に雨量が多く、成熟期には乾燥するところが適しています。

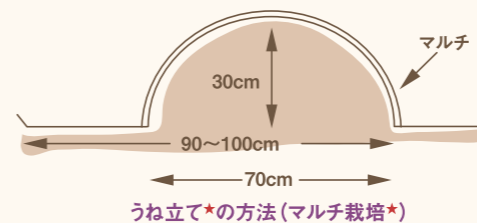
1. 苗の植付け

- 5月初旬から6月上旬に苗を植付けます。
- よい苗は、
 - ・茎が太い
 - ・えき芽(わき芽)が多い
 - ・適度のやわらかさがある
 - ・葉が広くて厚く、7枚程度付いている
 - ・長さは25~30cm、5節以上という特徴があります。



2. 畑の準備

排水ならびに通気性のよい畑を選び、植付けの10日~15日前に元肥を全面に施します。うね幅90~100cmで、できるだけ高うねにし、黒マルチをうね全面に敷いて地温を高めておきます。



3. 施肥

窒素過多によるつるぼけを避け、育成の状況を見ながら化成肥料を施します。

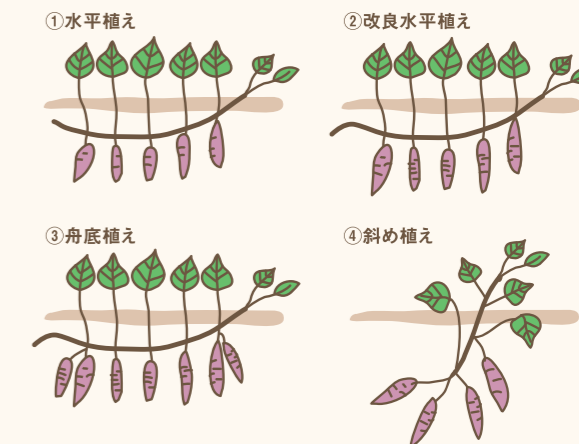
施肥例:マルチ栽培(10m²当たり)

種類	元肥
苦土石灰*	0.5kg
油かす	1kg
化学肥料	0.5kg

- ※「つるぼけ」の原因
1. 窒素肥料が多すぎる場合
 2. 土中の水分が多すぎる場合
 3. 土中の通気が悪い場合

4. 植付け

- 植付け時の平均気温が20℃になる頃が適期ですので、マルチをして地温が高まってから植付けます。うね幅 90~100cm、株間を35~40cmの1条に植付けます。
- ポリマルチの上部をカマなどで切り、水平植えか、斜め植えにします。
- 塊根は苗のそれぞれの節にひとつずつ付きませんが、苗の植え方によってその付き方が変わります。水平に挿すと土の中の節数が多いため塊根数が多くなり、縦に挿すと土の中の節数が少ないため塊根数は少なくなります。
- 植付けられた苗は適度な水分と温度があれば、一週間くらいで発根・活着します。



5. 収穫

- 試し掘りは苗を植付けてから約100日以降、収穫は苗を植付けてから約120~150日を目安にし、9月以降のもの太りを見て収穫します。
- 10月中旬以降に収穫がずれ込むと、いもは太るものの食味が劣り、貯蔵性も落ちます。

one point advice

ワンポイントアドバイス

「親の意見となすびの花は千にひとつの無駄がない」といわれていますが、ナスの花をよく観察してみましょう。ナスの花は雌しべが雄しべより飛び出している花がよく、逆に雌しべが雄しべより引っ込んでいる花は栄養状態の悪い花で、実が付かずに花落ちしてしまいます。こんな花を見つけたときはすぐに追肥をしましょう。

one point advice

ワンポイントアドバイス

生育期間の積算温度(1日の平均気温を合計したもの)は3000℃以上必要です。窒素肥料を控えめに施します。植付け密度を適度にする(株間35~40cm)。苗の植付けは4月下旬から行い、遅くとも6月中旬までに完了させます。連作が可能な野菜で、前作や後作に特に気を付ける野菜はありません。

ダイコン

アブラナ科

主な品種

耐病総太り、YRくらま（青首：長ダイコン）、冬どり聖護院（丸ダイコン）、干し理想（白首：長ダイコン）

家庭菜園ダイコンの作型目安（春ダイコンは除外）

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地									●	●	●	●	●
中間地									●	●	●	●	●
暖地									●	●	●	●	●

● 直まき ■ 収穫



栽培のPoint

- ◎「大根十耕」（だいこんじゅうこう）という言葉があるように、よく耕した畑ほど立派なダイコンが育ちます。深さ30cmくらいまで何回も耕します。
- ◎ダイコンの根が、石や土の塊、完熟していない堆肥、雑草の根などに当たると股根（またね）になったり、ヒゲ根の多いダイコンができてしまいます。
- ◎種まきから収穫までの日数は品種によって異なります。「耐病総太り」「YRくらま」で60日、「干し理想」で70日、「冬どり聖護院」で75日程度かかります。この日数を目安に栽培しましょう。

1. 畑の準備

耕土の深い、排水のよい砂壤土が適します。秋ダイコンの場合、後作になるので、十分、耕土をすき返さうね立て*します。

2. 施肥

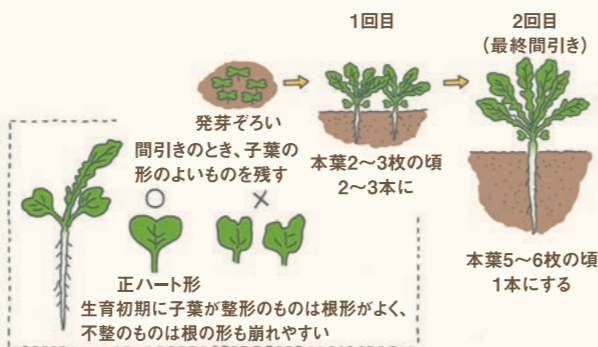
追肥1回目は本葉5~6枚のとき、条間に施用し、2回目はうねの肩に施します。追肥は穴肥として施してもよいでしょう。

施肥例（10m ² 当たり）			
種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰*	1.5kg		
ナタネ油かす（5-2-1）	1kg	0.5kg	0.5kg
高度化成肥料（14-10-13）	1kg	0.5kg	0.5kg

3. 播種

ダイコンは必ず「直まき」にします。移植すると直根が切れて、ほとんどが岐根（またわれ）になってしまいます。長ダイコンでは、うね幅90cm~1m、株間20~25cmの2条まきとします。ダイコンは「共育ち」といって、葉と葉がふれあって生育しているほうが初期の生育がよいので点まきにし、1カ所に3~5粒ずつまきます。厚さ1cmほどの覆土を行ったのち、平ぐわで押さえます。播種後、乾燥を防ぐため稲わら、寒冷紗*等で覆います。

4. 間引き、土寄せ*



1回目の間引きは本葉が2~3枚の頃、1カ所2~3本を残します。2回目は本葉5~6枚の頃、1本にします。

間引きは、

- (1) 発育の旺盛すぎるもの、または遅れたもの
- (2) 葉色が濃く、つやのないもの
- (3) 子葉の奇形や本葉の奇形のもの
- (4) 病害虫に侵されたものなどを除外します。間引きが終わるたびに、中耕*を兼ねて株元に土寄せをします。



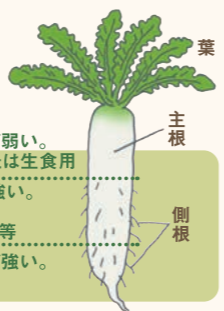
株間を確保して1本立ちとする
草姿が開張性で、葉が黒っぽいものや、草勢の強いものを抜く

5. 収穫

収穫が遅れると、「す」が入ってしまい、味が悪くなるので気を付けましょう。外側の葉を取ってつけ根から2~3cmくらいのところを切り、その断面を調べます。断面の中央部が空洞になっている場合は、根の部分も「す入り」になっています。



す入りの調べ方



からみが弱い。煮物または生食用
甘みが強い。サラダ・ふろふき等
からみが強い。おろし用

キャベツ

アブラナ科

主な品種

彩（あや）ひかり、YR湖月、おきな、松波

家庭菜園キャベツの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培									●	●	●	●	●

● 種まき ■ 育苗 × 植付け ■ 収穫

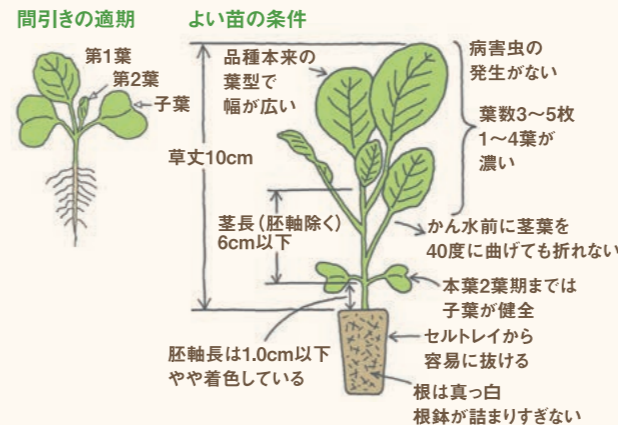


栽培のPoint

- ◎種は寿命が短いので、毎年新しい種を購入します。
- ◎キャベツはハクサイに比べて肥料を多く必要とします。しっかりと硬くしまった球をつくるには、結球までに20枚以上の外葉がつくられている必要があります。追肥する時期を守りましょう。

1. 育苗

- 播種は、うね幅90cmの苗床を設け、表面をよくならし10cmほどの間隔ですじを切り条まきします。覆土後、十分かん水*して、夏まきの場合には寒冷紗*を直がけし、地温の上昇と乾燥および降雨にたたかれるのを防ぎます。発芽後は夕立などにたたかれないようにトンネルで雨よけします。
- 本葉が出始めて2枚目が出る頃までに間引きを行い、株間を6cmぐらいに仕立て、無仮植で育苗します。定植1週間前にスコップで苗の根を切るで細根が出てよい苗になります。



2. 畑の準備

キャベツは保水性のある土壌を好むわりには、湿害を受けやすいので、十分な排水が図れる畑を選びます。冬期の乾燥期やキャベツの結球期に土壤水分保持ができるよう、堆きゅう肥など有機質資材を施し、土づくりに努めます。

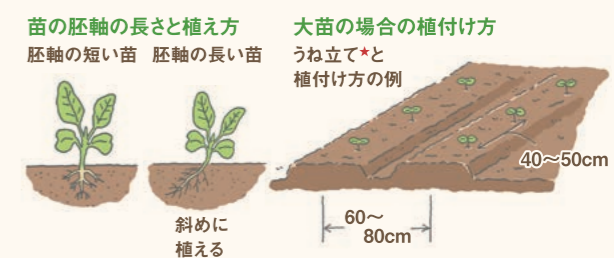
3. 施肥

キャベツの施肥では、結球し始める頃に、肥料養分の要求度が高いので、追肥はその時期までに全て施用することが大切です。植付け後、15日後に1回目の追肥としてうねの中央に、2回目の追肥はその約2週間後の本葉15~20枚の頃に与えます。

施肥例（10m ² 当たり）			
種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰*	1.5kg		
ナタネ油かす（5-2-1）	1kg	1kg	
高度化成肥料（14-10-13）	1kg	0.5kg	0.5kg

4. 定植

うね幅60~80cm、株間40~50cmの1条植えか、うね幅1.1~1.2m、株間35cmの2条植えにします。育苗日数30~40日の本葉4~6枚の苗を定植しますが、活着をよくし、初期の生育を進めるために、苗床は定植前に十分かん水し、畑が乾燥している場合は、一雨待って植付けます。定植後、7日程度は十分かん水し、植え傷みを防ぎます。



5. 中耕*・かん水・収穫

土壌の通気性を高め、キャベツの根の張りをよくするために除草を兼ねて中耕を2回程度行います。また、秋~冬期に降雨が少なく、土壌が乾燥した場合にはできる限りひん繁にかん水して、肥効を高めるとともに結球を促します。球を押さえてみて、堅くしまったものから順次収穫します。収穫が遅れると球が傷んだり、割れたりすることがありますので、気を付けます。



手で押さえてみて硬くしまつてきたら収穫する。探り遅れて雨にあうと裂球するので注意

one point advice

ワンポイントアドバイス

1本のダイコンでも利用する部分によって用途が違います。葉の近くの部分はからみが弱くて煮物または生食用向き、まん中部分は甘みが強くてサラダ、ふろふき向き、下部は辛みが強くおろし用に向いています。

one point advice

ワンポイントアドバイス

私たちが食べておいしく感じるやわらかいキャベツは害虫も好んで食べます。結球を始めるまでに散布された殺虫剤は外葉に付着しますが、結球開始以降の内葉にはほとんど付着しません。外葉の20枚が害虫に食べられないよう早期防除に努めてください。

ハクサイ

アブラナ科

主な品種

黄ごころ85・晴黄85(黄芯系)、
無双・金将2号(白芯系-従来系)、
お黄にいり(ミニハクサイ)

家庭菜園ハクサイの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
中	秋~年内どり								●	×		■	
間									●	×		■	
地	年内~冬どり	■							●	×		■	

● 種まき ○ 育苗 × 植付け ■ 収穫



栽培のPoint

- ◎生育適温は、生育の初期は20℃くらい、結球期は10～15℃と、生育初期には低温、結球期は高温を嫌います。
- ◎主要な作業(間引き・土寄せ*・防除・追肥など)が、種まき後50日ぐらいの間に集中しますので、適期作業を逃さないようにすることが大切です。

1. 育苗

- 種を直接畑にまく(直まき栽培)方法と育苗して本葉4～5枚の苗を植付ける(育苗栽培)方法があります。育苗する場合には9cmのポリ鉢に有機物に富んだ床土を入れ、2～3粒ずつまきます。ポリ鉢は風通しのよい涼しいところに並べ、寒冷紗*等で覆い乾燥を防ぎます。種まきは8月中旬から9月上旬頃です。
- 地床で育苗する場合があります。本葉が出始めの頃、1本に間引きます。30日程度まで育苗します。

2. 畑の準備

ハクサイは根が繊細で深く入るので、耕土の深い排水のよい畑を選び、有機質資材を多用して、作土を膨軟にしておきます。

3. 施肥

播種、もしくは定植の10日前に元肥を全層に施用し、耕起してうね立て*します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰*	1.5kg		
ナタネ油かす(6-2-1)	1kg	0.5kg	
高度化成肥料(14-10-13)	1kg	0.5kg	0.5kg

追肥は生育初期に肥料切れしないよう速効性の肥料を早めに施します。収穫期には肥料が残らない状態にするため結球後の日持ちがよくなります。1回目の追肥は9月下旬に、2回目の追肥は、葉がまき始めた10月中旬に株と株の間に与えます。

4. 播種・定植

- うね幅120cmのうねで、2条植えとし、株間を早生種では35～40cm、中生種、晩生種では40～45cmに点まきまたは定植します。
- 点まきは1カ所3～5粒ずつまいて薄く覆土し、乾燥防止に切りわらもしくは寒冷紗を敷いた後、かん水*します。
- ポリ鉢等の苗を定植する場合は、あらかじめ十分かん水しておき、夕方にポリ鉢から抜いて浅植えし土を落ちつかせるために十分にかん水します。

one point advice

ワンポイントアドバイス

ハクサイの生育日数は品種によって異なりますが、種をまいて50～90日の範囲です。収穫したい月日から逆算して品種や種まきの時期を選びましょう。品種名の後ろに85とか90とかの数字のついたものがあります。これらの数字は、その品種の生育日数ですので、収穫の目安にします。

5. 間引き

直まきの場合、1回目の間引きは本葉2枚の頃3～4本、2回目は本葉6～7枚で1本にします。

間引く苗



2回目の間引き

葉が重ならないようにし、生育が平均的で病害虫のない株を残す



最後の間引き

ポットから移植した株も本葉6～7枚の頃に1本立ちにする



株直し

直すまっすぐに移植した株も残した株がふらつかないように少し土寄せし、株をまっすぐに直す



6. かん水

ハクサイは、乾燥に弱いので土壌の乾・湿を見定めて、適宜かん水を励行します。

7. 中耕*、除草、病気

- 追肥の際にうねの肩を薄く削り、除草を兼ねて中耕を行います。なお、結球期に入るとハクサイの根を傷めるので、早めにこれらの作業を完了します。
- 15℃以上の高温下で結球を始めると軟腐病(株全体に腐敗が進み、悪臭を放つ病気)が発生しやすくなりますので、発生したら株を引き抜いて、他のハクサイにうつらないよう場外に出しましょう。

8. 収穫と防寒

5℃以上あれば冬季でも生育を続け1～3月まで収穫することができます。



タマネギ

ユリ科

主な品種

七宝早生・ソニック(早生種)、
ざつき・ターボ・OK(中生種)、
アタック・もみじ(晩生種)

家庭菜園タマネギの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
中	極早生					■				●	×		
間	早生					■				●	×	■	
地	中・晩生					■				●	×	■	

● 種まき ○ 育苗 × 植付け ■ 収穫



栽培のPoint

- ◎タマネギは冷涼な気候でも生育し、寒さにも強い作物です。連作も可能です。
- ◎種の寿命は1年くらいです。毎年、新しい種を購入しましょう。20mL入りの袋の種は約2,500～3,000粒です。
- ◎植付ける苗の大きさは、苗基部の径(基部の直径)が4～8mm程度。葉数4枚、草丈20～25cm程度です。大きな苗になればなるほど、冬の低温の影響を受けやすく抽立ち(とうだち)の危険が大きくなります。

1. 育苗

育苗はネギに準じて行います。各品種とも種まきの適期の幅が短いので気を付けます。定植苗はあまり大きくなく、葉数3枚、苗基部の4～5mm程度が適当です。大苗になるほど、収穫時期に抽立ち(とうだち)の危険があります。小面積の場合は購入した苗を利用して下さい。

2. 畑について

土性は特に選びませんが、砂質壤土には、大球、多収性の中生種を、粘質壤土には晩生種を植付けるようにします。

3. 施肥

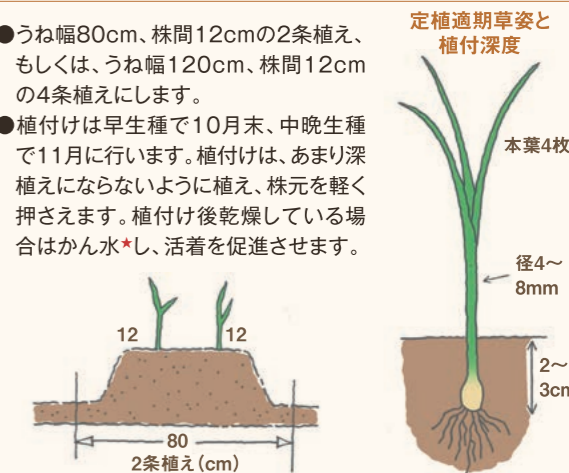
元肥はリン酸成分を多めに施します。窒素とカリが不足すると球の肥大が悪くなり抽立ち(とうだち)が多くなり、逆に多すぎると肥大が遅れ、貯蔵性が悪くなります。追肥は、12月(必ず年内)と2月(遅くとも3月上旬まで)の2回に分けて施します。

施肥例(10m²当たり)

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰*	1.5kg		
ようりん	0.2kg		
高度化成肥料(14-10-13)	0.5kg	0.5kg	0.5kg

4. 定植

- うね幅80cm、株間12cmの2条植え、もしくは、うね幅120cm、株間12cmの4条植えにします。
- 植付けは早生種で10月末、中晩生種で11月に行います。植付けは、あまり深植えにならないように植え、株元を軽く押さえます。植付け後乾燥している場合はかん水*し、活着を促進させます。

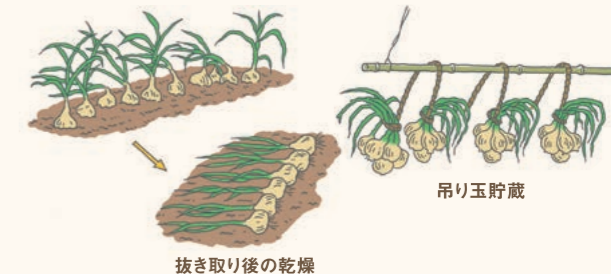


5. 土寄せ*

定植後、冬草が発生するので、順次中耕します。なお、2月に追肥と同時に中耕し株元に土寄せします。早春に過湿になると病害が発生しやすいので、冬のうちに排水をよくしておきます。4月下旬以降の葉折れ、根の踏みかためは球の肥大が悪くなりますので、雑草が生えていても収穫まで畑に入らないようにしてください。

6. 収穫

収穫適期は、5月以降に茎全体3割程度倒伏した頃です。早生種《4月上旬～5月上旬》、中生種《5月中旬～5月下旬》、晩生種《5月下旬～6月中旬》です。貯蔵性をよくするため、晴天の日に収穫作業を行います。短期間の貯蔵の場合は、茎葉を切り落とし、小型コンテナへ入れ通風のよい日かげに置き、乾燥させます。晩生種で長期間貯蔵する場合は収穫時に茎葉を束ねて、わら、ビニールひもなどで結束し吊り貯蔵します。



one point advice

ワンポイントアドバイス

我が国には、江戸末期に導入され、明治初期に春まき栽培が北海道に、明治中期に秋まき栽培が大阪府泉南地方に定着し、全国に栽培が広まりました。泉南でタマネギ栽培が始まって100余年。高値で笑った年もあれば、安値で泣くに泣けない年もあったとか。それでも、泉南地方の農家は、いつもタマネギと一緒に暮らしてきました。

イチゴ

バラ科

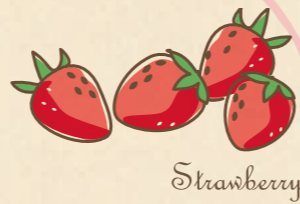
主な品種

宝交早生

家庭菜園イチゴの作型目安

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル栽培					●	●	●	▲	▲			×	
露地栽培					●	●	●	▲	▲			×	

● 新株植付け ▲ ランナー挿し × 植付け ◯ トンネル被覆 ■ 収穫

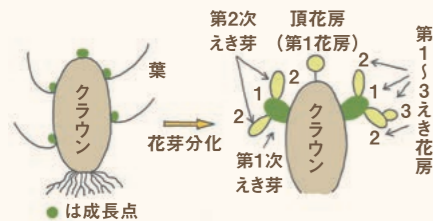


栽培のPoint

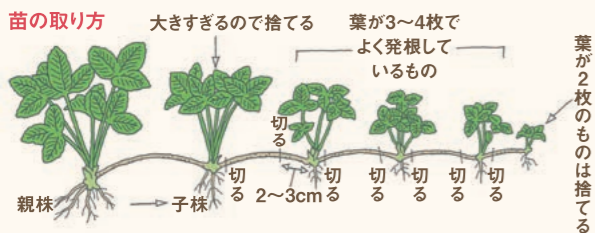
- 私たちが食べている果実は「花床（花托）」と呼ばれる花のつけ根の部分で、肥大・発達したものです。
- 9月中旬から10～17℃の低温、12時間程度の日照で花芽分化が始まり、10月中下旬に形成されます。その後、休眠し、必ず5℃以下の低温に400～500時間程度あわせないと、いくら適温を与えても開花・結実しません。

1. 育苗

- トンネルや露地でイチゴを栽培する場合は、ハウス用の品種（とよのか、とちおとめなど）より、露地栽培にあった宝交早生などの品種を選びましょう。育苗は仮植育苗と無仮植育苗があります。どちらも5月以降に収穫後の株で生育のいいものを選び、広いうねに移植します。7月下旬ぐらいから発生したランナーを等間隔に誘引して、子苗の発生を揃えます。
- イチゴの茎はクラウンと呼ばれ、生長点はクラウンの頂部とえき芽（わき芽）にあります。花芽は最初に頂部にでき、続いてえき芽の花芽が分化して花房に発達します。花芽分化は9月中旬頃から始まり、10月中下旬に形成されます。



- 本ほに定植する苗は、8月上～中旬に発生した若苗で、1株の親から20～30本ぐらい発生させます。仮植育苗は8月下旬に仮植えしますが、無仮植育苗は親株を取り除き、ランナーを切っておきます。10月上旬、本葉4～5枚ほどの苗に仕上げます。



ワンポイントアドバイス

開花から成熟までの期間や、果実の大きさ、色などには、温度が影響します。美しく、おいしいイチゴを収穫するためには、昼温20℃、夜温6～7℃が必要で、しかも、まんべんなく光が当たるのが大切です。

2. 畑の準備・元肥

元肥は堆肥とともに、うねの中心深層部に施用します。イチゴは肥料に弱く、濃度障害が発生しやすいので、元肥は油かすを主体に10m²当たり2kg程度を施します。

3. 定植

花芽分化の終わった10月中下旬、うね幅1.2m、株間20cm、2条植えにします。苗は、大小に仕分けして苗質を揃え、花房がランナーの反対側に発生しますので、花房が通路側になるよう浅植えします。深植えしないことが大切で、クラウンを露出させて植付けます。活着を早めるため定植の1～2日前、うね全体に十分かん水*しておきます。

種付けの方法

ランナーは2～3cm切り残しを付け、うねの内側に向けて植える

定植の深さと方向



4. 定植後の管理

植え傷みを少なくするため、かん水に努めます。定植時の古葉を摘除し、側芽が発生すれば芽かきを行います。老化した苗は12月頃に不時出蕾が出やすく、出た場合は摘み取ります。追肥は1月に油かす10m²当たり1kg程度を与えます。2月頃、うね全体に黒マルチを敷きその後、イチゴの株を丁寧に引き出します。3月上旬にトンネルがけし、保温します。

5. 収穫

イチゴは虫媒によって、受粉が行われ、開花から成熟までの積算温度は約600℃、開花から35～45日で収穫できます。4月下旬から5月にかけて、収穫期に入りますが、日中、高温時に収穫すると果実の傷みはげしく、甘みも低下しますので、収穫は早朝に行いましょう。

あなたも使える

ミニ耕うん機

簡単な使い方

耕うん作業やうね立て作業も手早くスムーズに！



ミニ耕うん機のご購入を検討中の方に、初心者でも簡単にできるミニ耕うん機の使い方を紹介します。今回は、ヤンマーミニ耕うん機 YK300QT を使って説明します。エンジンをかけたら作業中はレバーを握ればスタート、離すとストップという簡単操作なので、ご年配の方や女性の方でも安心してお使いいただけます。

1. 耕うん*作業

ミニ耕うん機を使って耕うんすることで、より深く耕うんすることができ、野菜の生育しやすい環境を手軽にしかも短時間でつくることができます。

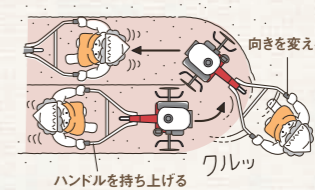
●作業のコツ

1. 畑の隅から作業をスタートします。視線を進行方向の少し遠方に移して、まっすぐ耕うんします。
2. 畑の端まできたら、アクセルレバーを「L」位置に戻してエンジン回転を下げます。
3. ハンドルを持ち上げ、抵抗棒を地面より上げて、ハンドルを振って本機をUターンさせます。爪が先ほど耕うんしてきた部分に隣接する位置に旋回します。
4. アクセルレバーを「H」位置にして、エンジン回転を上げて作業を続けます。
5. 同じ要領で畑の端から順番に耕うんしていきます。

*危険を感じたら、主クラッチレバーから手を離してください。エンジンが止まります。



●簡単! 旋回のしかた



●効率のよい回り耕のしかた



2. うね立て*作業

手作業ではむずかしい部分もありますので、ぜひミニ耕うん機をお使いください。簡単に、きれいなうねがつけられます。

うねを立てる位置に印をつけておくと作業がしやすくなります。



ミニ耕うん機なら、うね立ても簡単!

●作業の準備

きれいなうねを立てるためには、

1. 事前にしっかりと均一な深さで耕うん作業をし、表面を平らしておきます。
2. あらかじめ栽培する作物に応じたうね幅を確認し、どのようにうねを立てるか決めておきます。
3. うね幅を一定に保つため、うね幅の距離を測って、うねを立てる位置に印をつけておくとよいでしょう。

●作業のしかた

基本的な作業は耕うん作業に準じます。

1. 本機に培土器を装着します。
2. うね立てのスタート地点では、ハンドルを強く押し下げてミニ耕うん機をスリップさせ、培土器の羽根に土をためてから始めると、最初からきれいなうねがつけられます。
3. うねを立てたら、崩さないよううねとうねの間を歩きます。
4. 視線を進行方向の少し遠方に移して作業を進めると、まっすぐなうねができます。

3. 中耕*作業

手作業では大変な中耕作業が、すばやく、簡単に行えます。



●作業の準備

丈の長い草が生えている場合は、あらかじめ除去しておくことで作業ができます。

●作業のしかた

基本的な作業は耕うん作業に準じます。

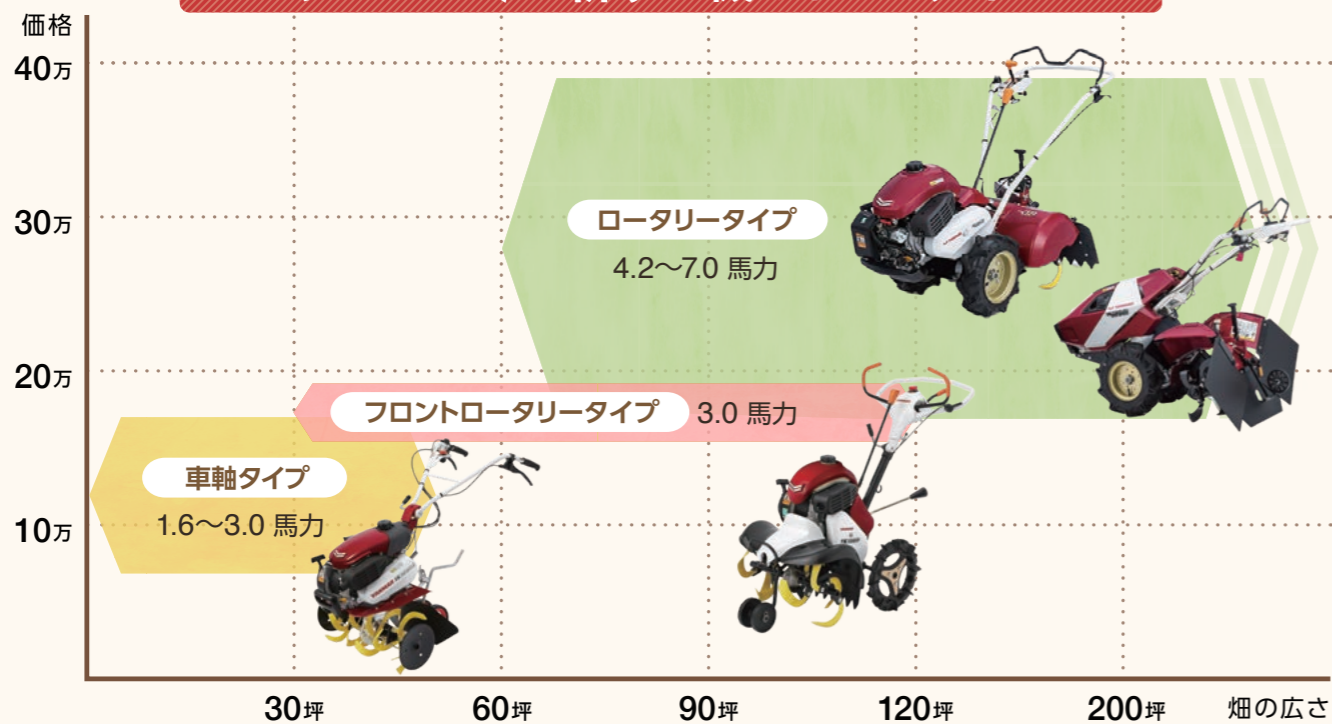
1. 作業始めはハンドルを押し下げ気味にして、希望の深さまで調整します（深すぎると作物の根を傷めるので注意します）。
2. うね間を軽く耕うんします。育てている作物の葉や根を傷めないように注意しましょう。
3. うね間から次のうね間へ移動するときはエンジンの回転を落とし、クラッチレバーを半クラッチ状態で操作すると、うねや作物を傷めずに楽に移動できます。

家庭菜園をもっと楽しむ
ミニ耕うん機の選び方



自分で育てた自然の恵みを、大切な家族や友人と楽しめる。
家庭菜園には、「つくるよろこび」がつまっています。
「ミニ耕うん機」を使うことで、野菜づくりをもっと気軽に楽しめます。

ヤママーミニ耕うん機の3つのタイプ



ミニ耕うん機で
できること
耕うん うね立て*
うね崩し

*一部仕様を除く

アタッチメントの取り付けで

育てたい作物に適した耕うんやうね立てをはじめ、除草作業や深耕作業、整地・うね崩し、整形マルチなども可能に。同時作業による能率アップも期待できます。

中耕
培土

除草

整地

マルチ

あぜ
切り

除雪

お悩み
解決!

タイプ別おすすめPOINT!



まずは手軽に始められる
ミニ耕うん機が欲しい!
クワの代わりになって、持ち運び
がラクなタイプはあるかな?

POINT

- 狭い畑での作業にむいています。
- 本格的な耕うんはもちろん、多彩なアタッチメントで多用途に使えます。

そんなあなたには
車軸タイプYK301QTシリーズ
がおすすめ

コンパクトにたためて
車に乗せやすく、
家から距離のある畑へも
移動がラクラクです。



機械の操作が不慣れで不安...
安心して作業できるものがない。
畑の端っこだまで
機械で作業を完結させたいな。

POINT

- 土が硬い畑でも、機械が前方へ飛び出すことなく、しっかり耕うんできます。
- ロータリーがうねを崩してからタイヤが通るので、うね崩しがラクにできます。

そんなあなたには
フロントロータリータイプ
YK300FPがおすすめ

ロータリーがタイヤの前にあるから、
耕す時に足元が気にならず安心です。
狭い畑でもすみまで耕うんできます。



良い作物を育てるために
もっと深く耕うんしたい。
本格的なうねを立てて、
作物にあった畑を作りたい!

そんなあなたには
ロータリータイプ
YK-MRシリーズ
がおすすめ

耕うんの深さを最大6段階から
選べるので、硬い畑もしっかり耕せます。
アタッチメントなしで、作物に応じて
様々なうねを立てることができます。

POINT

- けん引力が大きく安定しているので、女性にもオススメです。
- ロータリータイプにセル仕様が仲間入り。キースイッチを回してかんたんにエンジンスタートできます。



パワフルに作業ができて
コンパクトな
ミニ耕うん機が欲しいな。

そんなあなたには
ロータリータイプ
YK-CRシリーズ
がおすすめ

コンパクトなボディに
4.2PSのエンジンを搭載、
しっかりと
耕うんができます。



用語解説



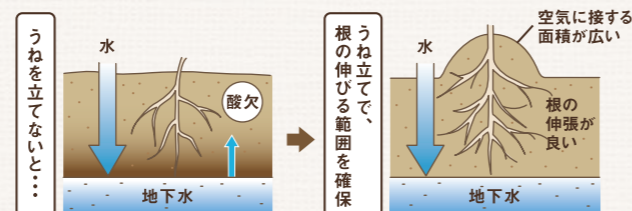
うね立て

(P07・14・16・17・18・19・22)

耕うんした土壌を盛り上げて畑に「うね」をつくることをいいます。うね立てには、以下の効果があります。

1. うねを高くすると、排水性がよくなります。
2. 空気に接する面積が多く、通気性がよくなるので生育が促進されます。
3. 日照面積が広がるので地温が高くなり、作物の初期生育が促進されます。

4. 根の伸びる範囲が広がり、根腐れを防止できます。また、水分を求めて根の伸張がよくなります。



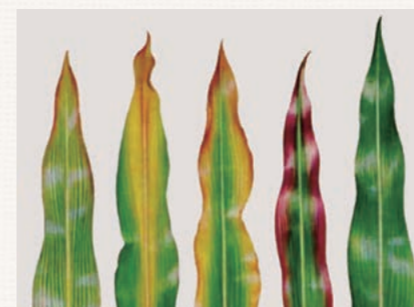
ペーハー (pH・酸性度)

(P03・08)

土壌の酸性度・アルカリ度を示す値をいいます。作物によって適正なpHが異なります。pHを最適にしないと、さまざまな欠乏症・過剰症が起こり、作物に悪影響が出ることがあります。

- アルカリ性が強くなると…
生育に必要な主成分が溶けにくくなります。
- 酸性が強くなると…
作物に悪影響を及ぼすアルミニウムやマンガン、鉄、銅、亜鉛などの微量要素が溶け出しやすくなります。

【pHと生育障害】

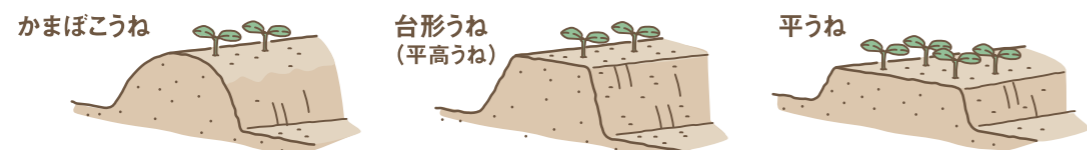


マグネシウム 窒素 カリウム リン酸 正常
欠乏 欠乏 欠乏 欠乏

【pH値と適作物】

pH値	作物
7.0～6.5	エンドウ・ホウレンソウ・ブドウ
6.5～6.0	大豆・小豆・大麦・小麦・トウモロコシ・アスパラガス・レタス・ネギ・ハクサイ・ブロッコリー・カボチャ・キュウリ・トマト・ナス・ピーマン・サトイモ
6.5～5.5	稲・キャベツ・コマツナ・チンゲンサイ・イチゴ・ゴボウ・ダイコン・タマネギ・ニンジン
6.0～5.5	サツマイモ・ニンニク・ジャガイモ・ラッキョウ

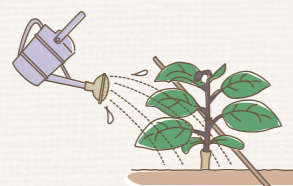
代表的なうねの形状



かん水

(P07・08・09・10・13・14・15・18・19・20・21)

作物に水を注ぐことをいいます。水やりと同義語です。



寒冷紗

(P07・08・17・18・19)

遮光性があり、風通しがよく、防虫効果のある資材です。

苦土石灰

(P06・07・08・09・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20)

炭酸マグネシウム(苦土)と炭酸カルシウム(石灰)の補給が同時にできる肥料のことです。畑のpHの矯正や、カルシウム、マグネシウムの補給時に施します。

耕うん

(P03・22)

耕うん作業は、土の中に空気や肥料を取り込み、野菜の根張りをよくする大切な作業です。また、雑草や土中の病原菌を日光に当てて殺菌する効果もあります。

中耕・土寄せ(培土)

(P03・07・08・10・11・12・17・18・19・20・22)

通気性、排水性をよくするために、うね間の土を軽く耕すことを中耕作業といいます。また、うね間の土を細かく砕いた後に、培土板などを使用して砕いた土を作物の株元へ寄せる作業を土寄せ(培土)作業といいます。



摘芯・摘果

(P10・11・13・14・15)

摘芯は、茎の先端を摘み取る作業のこと。摘果は、早い時期に着果したものを摘除することです。いずれも、残った部分の成長や結実がよくなります。

マルチ栽培

(P06・11・16)

マルチフィルムなどの資材を用いて、土壌表面を覆って栽培することをいいます。マルチ栽培には以下の効果があります。

1. 地温の調節
2. 表土の保全
雨などによる表土の流失を防ぎます。また肥料の流失も防ぐため、肥料の節約にもなります。ただし、追肥が困難なので、元肥をしっかり施します。
3. 泥はねの防止
土の汚れによる病気の予防にも役立ち、農業使用量も少なくて済みます。
4. 土壌水分の保持と多湿の防止
5. 雑草防止(黒色フィルム)
光をさえぎり、雑草の種子の発芽が阻害されて雑草の防除になります。除草剤の使用が少なくて済みます。

【フィルムの種類】

マルチフィルムには、色(透明(白)、黒、シルバーなど)や幅、穴あきの有無などの種類があります。



黒色フィルムを使った、YK-MRシリーズによるマルチがけ作業